

# オンデマンド課題による美術の遠隔授業

～ 2020年度前期の実践より ～

吉田 貴富

Distance learning of art by on-demand assignment :  
A case study of a course in the first semester of 2020

YOSHIDA Takatomi  
(Received August 3, 2020)

キーワード：美術、アート、鑑賞、遠隔授業、オンデマンド、新型コロナ

## はじめに

2020年は新型コロナの感染が世界中に拡大した年である。

山口大学では4月13日に前期の授業を感染防止に配慮しながらの対面形式で開始したが、より徹底した感染防止のためにすぐに遠隔授業に切り替えられた。遠隔授業の手法・形態については、シラバスに掲げられている到達目標が達成されるならば、多様な選択肢が認められた。遠隔会議システムを使用してもよいし、しなくてもよい。リアルタイムでもオンデマンドでもよい。

本稿では、筆者が模索しながら工夫して実践した共通教育科目と学部専門科目の遠隔授業の中から、オンデマンド課題で進めた実践の一部を報告し考察する。

## 1. 共通教育「A r tのA」における実践

### 1-1 共通教育「A r tのA」

山口大学共通教育の中で筆者が担当している「A r tのA」である。この授業は、「一般教養」系列のうち「人文教養」「社会教養」「自然教養」「学際的教養」の4つの領域の中の「学際的教養」、その「学際的教養」の中に6つの分野があり、そのうちの「文化の継承と創造」の中の一科目である。筆者が単独で担当している。クォーターの授業であり、2020年度は前期クォーター2と後期クォーター4に開講され、今回考察の対象とするのは前期クォーター2の実践である。2020年度前期クォーター2開講の「A r tのA」の受講者は、人文学部26名、理学部12名、工学部24名、計62名であった。水曜日1・2時限。

### 1-2 オンデマンド課題

山口大学の「就学支援システム」の「授業支援」の「レポート」機能を用いた。この「レポート」機能では、授業者は「レポートに関する説明」とともに「レポートに関する資料」としてファイルを置くことができ、受講者はそのファイルをダウンロードして閲覧したり記入したりして（あるいはそれらとは別のファイルでも）「レポート」機能に提出することができる。授業者側からは、提出日時が記録されてわかりやすく、受講者はコメントを添えることも出来るし、授業者がそれに対してコメントを返すこともできる。提出物による授業者のパソコンのメモリへの負担も少なく済む。

### 1-3 授業実践

#### 1-3-1 第1回 6月10日(水) 石田徹也「囚人」(1999年頃)の鑑賞

この作品は、筆者が対話型鑑賞の最初に用いることが多い作品である。描写が写実的で明快であるのに、

描かれているのは、ありえない非日常的な光景である。それがみる者の想像力と思考力を刺激する。一見すると吹き出してしまうようなコミカルな印象すら受けるが、この作品について語り合っていくと、シリアスな内容の発言が主となっていく。誰もが通ってきた「学校」がモチーフであることが、鑑賞者の思考や発言を容易にする。

今回は、対話型鑑賞が出来ないので、個々でじっくり作品を見て、考えて、言葉にするという活動とした。Wordで400字詰め原稿用紙2枚を作成し修学支援システムにアップロードし、それに記入させて提出させた。

オンデマンド課題の形式は、単に受講生に課題をこなさせるだけではない。授業者である筆者は、課題の説明の中で、できるだけ対話的に語りかけるようにしている。授業者から受講生への投げかけのニュアンスがこの論文の読者に伝わるように、受講生に投げかけた文章から抜粋して以下に掲げる。

受講生のみなさんへ

よろしくお願いします。

大学生の間に一番身につけなければいけない力は何だと思いますか？ある人によれば「聴く力」だそうです。

この授業では、とりあえず「きちんと読んでください」。

若者の読解力が低下しているのは大きな社会問題となっていますが、みなさんの基礎学力は大丈夫でしょうから、要は「やる気」です。

「図工や美術は頭を使わない」と決め込んでいる人、大間違いです。これまでも頭を使ってきたはずですし、この授業でも使います。

この授業は、修学支援システムに課題を up して、それを提出してもらう形で進めます。

特に1年生のみなさん、せっかく大学に入って来たのに、このようなことで・・・残念でしょうけれど、出来る形で学んでいきましょう。

毎週水曜日に課題を up する予定です。1コマ目の時間帯に up するとは限りません。期限までに、所定の方法で提出してください。

## ■第1回の課題

添付する「作品図版」を見て、あなたが感じたことや考えたことを、添付する「原稿用紙」にワープロで綴って、この「レポート」機能へ提出してください。

- ★原稿用紙1枚以上、2枚以下。つまり、400字～800字です。  
2枚目に突入していないと減点。3枚目を勝手に作っても減点です。  
原稿用紙には「本文」だけ。所属も氏名も不要です。

段落の頭は、高校までに習ったとおり「1字下げ（空け）ましょう」。  
(これを行わないと・・・困ったことが起きる可能性が出るのですが、わかりますか?)

- その絵画作品の作者や題名が気になるかもしれませんが、  
★調べてはいけません！（画像検索などしてはいけません）  
あなたがその作品と向き合って、しっかり見て、しっかり考えるのです。  
★その作品に関する情報を書きなさい、と言っているわけではありません！

Wordのまま提出しても構いませんが、改変されることが心配ならPDFに変換したものを提出してください。

★提出期限：6月16日（火）

ご質問等あればご遠慮なくどうぞ。

1-3-2 第2回 6月17日（水）ボッティチェリ「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」（1483年）  
第1場面のディスクリプション

美術史の基本スキルであるディスクリプションを課題とした。対話型鑑賞に限らず、鑑賞の基本は「作品をよく見ること」である。対話型鑑賞においては、他者の意見を聴いてさらに見て考える、ということを繰り返すのであるが、今回はその対話や交流ができないので、ひとりであっても、まずは作品を細部までじっくり見て「何が描かれているのか」を理解し、それを言葉にすることを体験してもらった。

ディスクリプションの説明は、対面ならばスライドや口頭でわかりやすく説明することが可能であるが、それをそのまま指示文にしてしまうと、情報が多すぎるため、読み手はおそらくすべてを読まないし理解しない。そこで、電話という例えを用いてわかりやすく伝えたいつもりである。

前回の課題へのフィードバックから始めた。

【1】の課題、ほぼ全員が期限までに提出してくれました。内容も大学生らしいものでした。

本来、「対話型鑑賞」と言っても、教室で挙手して発言してもらい、他の人の発言から刺激を受けて、さらに見て考える・・・という活動をするのですが、今回の形式もいいなと思いました。

本日の課題です。

添付の作品図版を見てください。

あなたは、この絵を、電話で他の人に伝えるとします。

相手の手元にはその図版はありません。

あなたは、その絵を言葉だけで説明するのです。

★画像検索を行ってはいけません。

この絵を知っている人は、それなりにお付き合いください。

この絵に関する情報を調べなさいと言っているわけではありません。

あなたが見えていることを言葉にするのです。

例えば、他の作品で言うと・・・

「縦長の画面に人物の全身像が描かれています。10代くらいの男性が正面を向いています。右手の掌に球状の物を持っています。リンゴのように見えます。背景には・・・」

といった具合に。

前回同様、添付の原稿用紙に本文のみ（氏名等不要）ワープロで記入して提出。

★2枚目突入、2枚以下。

段落の頭は1字空ける。

提出期限：6月23日（沖縄戦終戦日）

（提出可能な期限を6月30日に延長しました。6月18日。ただし、提出期限は23日です。

期限を過ぎて提出した場合には減点とします。これは第1回の課題も同様です）

ご質問等あればご遠慮なくどうぞ。

1-3-3 第3回 6月24日(水) ボッティチェリ「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」(1483年)  
第2場面のディスクリプション

衝撃的な第1場面から、さらに衝撃的な展開を見せる第2場面。引き続きディスクリプションを課題とした。

さて、前回の課題。これまた、みなさんよく見て、よく書けていて、感心しました。やはり山大生は基礎学力がしっかりしています。

ところが、これを教室で対面形式で授業を行うと・・・残念ながら後ろの方で寝る人が出てきます。この点、遠隔の方がいいのかもしれませんが・・・(笑・泣)。

さて、絵画作品に描かれているモノ・コトを言葉で説明する。これをディスクリプションと呼び、美術史を学ぶ上での基本的なスキルのひとつです。

本来は、もっと単純な「図」みたいなものからトレーニングしていくのですが、今回はかなり情報量の多い複雑な図像でやりました。

それでもみなさん、よく見てよく書いています。

登場人物のうち、赤いタイツのようなものをはいている男性。画面の前面に双子のように2人見えますね。

さらに、気づいた人もいますが、画面向かって左奥、テントのようなものの前にも同じ赤いタイツのようなものをはいた人物が見えます。

実は、この3名は同一人物なのです。

違う時間をひとつの画面に描く。この手法を「異時同図(法)」と呼びます。

みなさん、子どもの頃に、これに似た手法を使って絵を描いたことがありますか？

たとえば、サッカーをしている自分を、トラップした自分、ドリブルした自分、シュートを放った自分、と3人描く、など。

異時同図法も子どものこの描き方も「お話」を1枚の絵で表そうとする上での工夫ですね。

子どもたちが、誰から教わるわけでもないのに、美術史上の異時同図法と同じ描き方をするとところが、人間のおもしろいところでありすごいところです。

さて、【2】の課題として見ていただいた絵は、実は、ある物語を4枚の絵で表現した作品の1枚目(第1場面)なのです。

本日【3】の課題はその続き、2枚目(第2場面)を見てもらいます。

前回同様に、この作品について調べないで、見えているモノ・コトを言葉で説明してください。

異時同図法とほぼ同じ子どもの表現を専門用語で「同存表現」と呼び、教育学部の授業ではもちろん教えるが、共通教育で専門用語を提示し過ぎると学生が混乱すると考え、あえて出さなかった。

1-3-4 第4回 7月1日(水) 『デカメロン』を読む(1) 「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」  
の元の話

昨年度までの教育学部の専門科目の授業では、「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」の元の話、『デカメロン』の第5日第8話を配付したことはあったが、宿題にしてきちんと読ませたことはなかった。それがこの度、新型コロナの流行のために遠隔授業となったことにより、同じく感染症であるペストが作品成立の基になっている『デカメロン』の本文を学生に読んでもらいたいとより強く思い、課題とした。

『デカメロン』本文<sup>1)</sup>を吉田がワープロ打ちしPDFにしたものを資料として配付した。  
提出用シートを【資料1】として後掲する。

みなさんにじっくり見てもらった絵の作者は、これらの絵の作者と同じです。

**図版：ボッティチェリ「ラ・プリマヴェーラ（春）」、同「ヴィーナスの誕生」**

ボッティチェリ（Sandro Botticelli, イタリア, 1445年3月1日? - 1510年5月17日）です。  
昨年が没後500年だったレオナルド・ダ・ヴィンチ（Leonardo da Vinci, イタリア, 1452年4月15日 - 1519年5月2日）より少し年上ですね。同じくイタリア人。

今回見てもらった作品（と言っても4枚のうち2枚だけですが）は  
『ナスタジオ・デリ・オネスティの物語』（1483年、プラド美術館所蔵）という作品です。  
ひとつの物語を4枚の絵（4つの場面）で描いてあります。  
以下にその4枚を掲げます。

**図版：ボッティチェリ「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」 4点**

Wordのままなので、図版を各自で拡大して見ることもできます。

元になっている物語は、ボッカッチョの『デカメロン』の中のひとつの物語です。  
『デカメロン』は、中学校か高校で教わった人もいるでしょう。

「1348年に大流行したペストから逃れるためフィレンツェ郊外に引きこもった男3人、女7人の10人が退屈しのぎの話をするという趣向で、10人が10話ずつ語り、全100話からなる」  
（レポートや論文で引用してはいけないWikipediaより）

受験勉強で「ボッカッチョ『デカメロン』」と覚えても、読んだことがある人はほとんどいないでしょう。

そこで、今回は『デカメロン』を読んでもらいます。

100話のうちの一つ「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」の全文です。「資料」として添付しています。出典は、2017年に文庫本3冊で出版されたものです。1冊1100円。訳が良くて、読みやすいです。

その表紙が！

**図版：文庫本表紙 上・中・下 <sup>2)</sup>**

この「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」がいかにおもしろいか、それを絵画にしたボッティチェリの作品がいかにか傑作かということの表れだと思えます。

「資料」全文を読んでください。

読んだ証として、提出用シートに適語をWordで記入して「レポート」機能に提出してください。

この翻訳、名訳だと思うのですが・・・「漢字にするかどうか」の選択と「送り仮名」の選択がちょっとよろしくないかと。

提出期限：7月7日（火）

（提出可能な期間を14日までとしておきますが、期限内に出さないと減点です）

### 1-3-5 第5回 7月8日(水) 『デカメロン』を読む(2) ペストを描いた場面

『デカメロン』の冒頭、「著者序」に続く「第1日まえがき」に当時のペスト流行の状況が描かれている。コロナ禍で生活し大学の授業を受講している学生たちにとって、この時期に感染症の歴史の1ページを知ることはいかに意義があると考えた。これも教養である。

提出用シートを【資料2】として後掲する。

ボッティチェリの「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」もおもしろいし、その原作であるボッカッチョの『デカメロン』のうちの一話もおもしろいですね。

ボッカッチョの『デカメロン』の最初の部分に、当時のペストの状況が描かれています。

ご存知の通り、新型コロナに限らず、人類は感染症と闘ってきました。感染症によって歴史が大きく変わったり、新たなものが生まれたりしました。新型コロナも私たちの生活や文化を変えつつあります。

新型コロナが流行した今年、是非とも『デカメロン』のペストの描写を読んでもらいたいです。

要領は前回と同じです。添付の資料<sup>3)</sup>を読んで、提出用シートにワープロで記入して「レポート」機能へ提出してください。

### 1-3-6 第6回 7月15日(水) パトリシア・ピッチニーニ「The Young Family」(2002年)の鑑賞(1)

この作品は、筆者が対話型鑑賞で用いることが多い作品である。対話型鑑賞をスライドや図版で行う場合には、立体作品やインスタレーション等は不向きとされるが、この作品は、正面からのアングルの写真1枚でも十分に対話型鑑賞が成り立つ。一見して興味を引くだけでなく、見どころが多く、多様な解釈の可能性を具えている点も対話型鑑賞にこの作品が適している理由である。

以下の文章は、Wordで作成しPDFにした「課題説明」というプリントに作品図版と共に記したものである。

#### 「対話型鑑賞」をやりたいのですが・・・できないので「ひとりで自由に考える」

20世紀末に日本に「対話型鑑賞」という手法が紹介され、学校教育や企業研修に採用されてきました。昨今特に企業・ビジネス界から注目されています。美術・アートは、おまけや無用なものではなく、このような力があるのです。

この手法、要は、従来の鑑賞方法のように誰かの解説を聴く・読むではなく、自分の眼でしっかり見て、自分の頭でしっかり考えて、それを言葉にして、さらに人の意見も聴いて、さらに見る、考える・・・という鑑賞方法です。

それをわかりやすく私は「みる・かんがえる・はなす・きく」と呼んでいます。

この授業で「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」で既にやったとおり、自分の眼でしっかり見て、しっかり考えて、それを言葉にしてみてください。

今回の作品を下に掲げます。

これは立体作品です。それを撮影した写真です。

美術館に行ったら、この立体物がドーンと置いてあったとしましょう。

ぐるりと見て回れないのが残念ですが、この写真1枚でもかなりの情報を読み取れます。

### 1-3-7 第7回 7月22日(水) パトリシア・ピッチニーニ「The Young Family」(2002年)の鑑賞(2)

対面の授業でも、やや誘導して社会問題との関連を考えさせている。

以下の文章は、Wordで作成した提出用ワークシートに記したものである。

■前回の作品についてさらに考えます。

在り得ない(?)生物に見えますが、今にも動き出しそうにリアルですね。

あれだけの立体物を制作するには、**大変な思考と能力と労力とお金**が必要でしょう。

こう考えると、あの作品の作者は、あの作品を見る我々に単に驚いてもらおうとか笑ってもらおうと思いつくったのではないでしょう。

やや誘導します。

**美術やArt**は、単に「美しい」とか「癒される」とか「気分転換」とか「趣味」とか「余暇」とか「おまけ」とか「好き嫌い」とかではなく、**社会や時代を映す鏡**でもあります。

アーティストは、非社会的な引きこもり・・・のような人もいますが、多くは社会的で常識的で、社会の問題に常に目を向けて、メッセージを発信したり、我々に立ち止まって考えさせたりします。

あの作品の作者が、**今日の社会問題**について我々に考えさせようとしたとするなら、**あなたはどのような社会問題を連想しますか?**

複数回答可。

前回の課題の中で述べた人も、ここで改めて書いてください。

いよいよ最後の課題です。もう文字数を指定するのはやめておきます。

これまでどおり、大学生らしい、大人らしい思考を綴ってください。

電子情報提出ですから、2枚目に入っても構いません。

■以下に綴ってください。

ここでも作者名と題名は提示しない。作者名と題名は、この第7回の課題の提出期限後に修学支援システムからのメールで伝え、あわせてネット上に他のアングルからの写真が何枚も存在していることと、作者パトリシア・ピッチニーニのサイトの存在を知らせる。

## 2. 学部専門科目「初等科図画工作」における実践

### 2-1 「初等科図画工作」

小学校教諭免許の「教科に関する科目」である。2年生前期。金曜9・10時限。

例年、教室の収容人員と教員の担当学生数を考慮して2班に分けて授業をしている。2020年度の受講者数は124名であった。

各班とも、映画『トントンギコギコ図工の時間』視聴(2回)、平面造形(6回)、立体造形(6回)の3分野を予定していた。美術教育教室の4名の専任教員で分担。筆者は、両班の『トントンギコギコ図工の時間』とB班の平面造形の担当であった。

### 2-2 授業実践

#### 2-2-1 鑑賞(映画『トントンギコギコ図工の時間』視聴の代替)

元々、この2回分は、美術史・美術理論の専任教員がいた時代にその教員が担当して鑑賞を内容として実践していた。2017年度から筆者が担当し、映画『トントンギコギコ図工の時間』のDVD<sup>4)</sup>を視聴させてきた。しかし、今回、その視聴が出来なくなったため、新たに鑑賞課題を考案した。(視聴覚教材の視聴は、遠隔会議システムを使えば可能であるが、筆者が2020年度前期の授業は遠隔会議システムを使わないと決めていたため)

第1回・第2回の課題：

■MOMAの所蔵作品の中で好きな作品1点をレポートせよ

「ヴァーチャル・ミュージアム」というサイトがあります。

<https://virtualmuseums.io/>

ここに入って、いくつかのミュージアムを覗いてみてください。

Googleストリートビューのように館内を移動できるサイトもあります。

いくつか見てみたら、

MoMA(The Museum of Modern Art, New York, ニューヨーク近代美術館)のサイトに入ってください。

そこでいろいろと見て、自分が一番気に入った作品を1点選んで、

下記の要領でレポートを作成して提出してください。

添付ファイル「【1】【2】レポート フォーマット」をダウンロードしてください。

これに必要なことを書き込んで完成させます。

「レポート フォーマット」を【資料3】として後掲する。

### 2-2-2 PowerPointアニメ

この授業で筆者は平面造形担当ということになっているが、毎年、「パラパラアニメ」も実践している。大事な内容であり、教職を志す学生に是非とも体験しておいてもらいたいからである。

いわゆるパラパラ漫画やパラパラアニメの原理は、小学校「図画工作」科、中学校「美術」科、高校芸術科「美術」、いずれの教科書にも掲載されているが、大学生に尋ねると小・中・高の授業で体験した者は1割にも満たない。美術教育のカリキュラムが歪んでいることが窺える。映画やアニメーションの原理であるにも関わらず授業で扱われていないのである。これを解消すべく、毎年パラパラアニメを実践している。教材として新日本造形の「パラパラまんが帳」を使用している。それが今回は無理だったので、これもデジタル化を図った。

例年、パラパラアニメの原理を説明するためにPowerPointで簡単なアニメーションを作成して受講生に見せてきた。そこで、PowerPointを用いてアニメーションをつくらせることを思いついた。これを思いついた後にインターネットで検索してみると、PowerPointを用いたアニメーション制作を紹介したサイトはいくつも存在した。学生はそれらを利用することもできる。

20コマ以上のアニメーションをつくることとした。

ポイントとしては「ストーリーよりも動き・変化を優先！」を掲げた。

制作に時間がかかるであろうことを考慮し、6月12日に課題として提示し、提出期限を7月24日とした。

### 2-2-3 色彩理論

中学校で教わることになっているレベルの色彩理論である。かつては日本中ほとんどの中学校で色彩理論が教えられたが、今日、中学校で色彩理論を扱っている学校は、毎年学生に尋ねて挙手させると、およそ半数である。小学校で図画工作进行を指導するには色彩理論の基礎を理解しておくことは必須である。

ワークシートを課題とした。【資料4】として後掲する。

### 2-2-4 混色（三原色による色づくり）

水彩画の指導も小学校の教員ならば必ず行うことになる内容である。例年、水彩画セットを受講生に用意させ、三原色（と白）を用いて画用紙上で透明水彩風と不透明水彩風で混色（色づくり）の練習をさせ、最終的には三原色（と白）を用いて手と葉を描かせる。今回、三原色による色づくりだけでも経験させたいと考え、インターネット上で、使えるサイトはないか探して、下記のサイトを利用した。

<https://cmykcolor.info/print.php?cor=COMOYOKO>

このサイトを使って、三原色を使って（黒は使わない）20色作って、プリント・スクリーン機能を用いてWordに貼り付けて提出するという課題である。

レイアウト例を【資料5】として後掲する。



### 3. 考察

#### 3-1 「ArtのA」について

石田徹也とパトリシア・ピッチニーニは、この授業で教材として必ず取り上げている。今回、対話型鑑賞の形は採れなかったが、見て考えたことを400字以上で綴ることによって、解説に頼らず、まずは自分の目でしっかり見て、考えて、言葉にするということは出来た。理想的には、これを基盤にして対話型鑑賞を行えば、より充実した対話になるであろう。

「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」については、今回のように丁寧に深く扱ったのは初めてである。原典である『デカメロン』本文も読ませることができた。高校までの学習を生かした大学生らしい内容であったと思う。新型コロナ禍でペストについても知らせることができた。時宜を得た内容であると言えるし、教養教育としても相応しい内容である。「美術は学際的な性質も持つ分野である」ということを対面の授業では教えるのだが、今回は、遠隔ではうまく伝わらないと判断して割愛した。しかし、一枚の絵画作品から文学や歴史や疫学にまで広がっていったことを受講生が体験したのであるから、それは美術の学際性を体感したに等しいと言えよう。

#### 3-2 「初等科図画工作」について

「ArtのA」が鑑賞を主体とした内容であるのに対して、「初等科図画工作」では、表現・制作も内容としている。従来の、例えば「画用紙に水彩画」を、遠隔会議システムを用いてリアルタイムで実践するとすると、受講生にとっても授業者にとってももどかしい授業とならざるを得ないと予想した。制作過程における個別指導も、教室における対面授業のように出来ない。そこで、今回は割り切ってオンデマンド課題をこなす形とした。

「混色」も「PowerPointアニメ」も、アナログの課題をデジタルに置き換えただけでは長所が見えた。絵の具と画用紙を用いて混色練習をさせると、多くの学生が「三原色」を3つとも使って色をつくることをためらう。2色の混色は、混ぜてできる色が予想できるのだが、そこに残りの1色を加えるとどのように変化するのが予想しづらいのである。それが、デジタルでは、簡単な数字の操作だけで可能である。

PowerPointアニメを実践してみると、受講生たちが授業者の予想よりも容易に、予想よりも上質な作品をつくりあげた。普段の授業において学生のPowerPointの使用を見ていると、必ずしも堪能とは言えない。その経験から、この課題の難易度が低くはないのではないかと予想したのだが（6週間という時間を与えた理由のひとつでもある）、現代の大学生は容易にこなした。やはりいわゆるデジタル・ネイティブであり、生まれた時からずっと豊富な視覚情報の中で育った世代である。提出された作品からは、楽しみながら制作したことが窺える。

今回開発したこれらの教材・題材は、小・中・高でも応用可能である。実践前から筆者はそう考えていたが、科目等履修生であるベテラン中学校教師の方<sup>5)</sup>が、混色課題について「中学生にもやらせると喜びそうです。私もやっていて大変おもしろかったです」とコメントをくださったので意を強くした。

#### 3-3 課題の負荷について

受講生が課題を遂行するために要する時間と労力について、当初から配慮したつもりである。単位の考え方では、原則的には授業時間の2倍の授業外学習が想定・期待されている。この通りに行くと、1コマの授業の学習は90分と180分、計270分の時間を要するものになってしまう。しかし、これは現実的ではない。

それが遠隔授業となると尚更である。学生は、すべての授業が遠隔化されたことにより、各授業者から形式の異なる連絡手段で課題や指示が出され、そのチェック・管理だけでも大きな負担である。授業時間の3倍を要する課題など非現実的であり、2倍を要する課題でも過重負担であろう。したがって、筆者が目安としたのは所要時間1時間から90分程度である。ただし、時間を多く要する課題については、相応の時間を与えた。「混色」課題には2週間、「PowerPointアニメ」には6週間を与えた。「PowerPointアニメ」は、簡単な作品ならば比較的短時間で出来るし、凝った作品を作るならそれなりの時間と労力を要する。受講生の興味・関心・能力に応じてこなせばよいと考えた。

奇しくもセメスターの途中で大学から全教員に対して、遠隔授業の課題が学生の過重負担とならないようにという指示が下りてきた。筆者の課題は受講生にとって過重負担にはなっていないと推察するし、受講生

からのクレームは来ていない。

## おわりに

新型コロナは、従来の生活様式や文化を変えつつある。従来できていたことができなくなるだけでなく、新たな内容や方法が生まれる契機でもある。

この度、限られた時間の中で、シラバスに掲げた目標を達成すべく遠隔授業の内容と方法を模索した。

企業では今回の新型コロナの流行によって仕事のオンライン化が一気に進んだと言われている。大学の授業もオンライン化できる部分があることがわかったとも言われる。しかし、学校の授業に限らず、対面で行ってきたことのすべてが遠隔会議システム等に移行するとは考えられない。要は「棲み分け」と「使い分け」であろう。今後も遠隔授業のより効果的な内容と方法が追求されていくであろうし、筆者も情報を集めながらさらに工夫していくつもりである。

筆者は2020年度前期、兼業先の私学では遠隔会議システム（Microsoft の Teams）を用いた授業を行った。その大学では、ちょうど2020年度の4年生から入学時にMicrosoft の Surface を持たせてきたので、全学年での遠隔授業へのスムーズな移行が可能であったため、実技を伴う一部の科目を除き、すべての授業が遠隔リアルタイム形式で行われた。

新型コロナウイルスに対するワクチンも特効薬も集団免疫も当分は出来そうにない。今後も遠隔授業を取り入れながらの授業実践となりそうである。2020年度後期は山口大学でも遠隔会議システム（Zoom）を用いたりリアルタイム授業を行いたいと筆者は考えている。

## 注

1. ボッカッチョ著、平川祐弘訳：『デカメロン』【中】河出文庫（河出書房新社），2017年，pp. 235～256.
2. ボッカッチョ著、平川祐弘訳：『デカメロン』【上】【中】【下】河出文庫（河出書房新社），2017年.  
ボッティチェリ「ナスタジオ・デリ・オネスティの物語」第3場面が分割されて表紙に用いられており、3冊を並べると第3場面が完成する。
3. ボッカッチョ著平川祐弘訳：『デカメロン』【上】河出文庫（河出書房新社），2017年，pp. 16～27を吉田がワープロで打ちPDF変換したもの。
4. 映画『トントンゴギゴ図工の時間』監督：野中真理子，2004年.  
DVD『トントンゴギゴ図工の時間』紀伊國屋書店，2005年.
5. 初等科図画工作の「混色」課題と「PowerPointアニメ」課題を、2020年度前期の他の授業科目でも実践してみた。この先生は「美術理論」の科目等履修生である。「美術理論」においては、「混色」は課題としたが、「PowerPointアニメ」は課題にできなかった。

## 【資料1】

2020前期「ArtのA」【4】 課題提出用シート 2020.7.1 (水)

ワープロで記入。 提出期限：七夕

4 所属先を残して他を削除してください

人文 理 工・機械 工・知能

氏名 \_\_\_\_\_

1. 本文の内容と同じになるように( )内に適語を入れてください。

- ナスタージョが恋をした相手は、彼よりも位がはるかに( )娘であった。
- しかし、彼女はナスタージョを( )にもひっかけない。
- ナスタージョは苦しみ、( )まで考えてしまう。が思いとどまった。
- ボッティチェリの絵に登場する、白馬の騎士が振り上げているものは(a, )であった。騎士はそのaを用いて自殺してしまった。
- 騎士が自殺した理由は( )からである。
- ボッティチェリの第2場面の向かって右下で犬が食べているものは( )であった。
- 騎士がこの女を追いかける年数は( )と同じ数の年数である。
- 騎士と犬と女の惨劇が起きるのは毎週( )曜日である。
- ナスタージョが恋慕した娘が騎士と犬と女の惨劇を見て狼狽し怯えた理由は、( )からであった。

2. ( )内に適語を入れてください。カタカナ語、一語。

- この物語、一応ハッピーエンドになっているが、要は、現代風に言えば( )の話である。通常、ハッピーエンドにならないから、今日、社会問題になっている。

## 【資料2】

2020前期「ArtのA」【5】 課題提出用シート 2020.7.8 (水)

ワープロで記入。 提出期限：7月14日 (火)

4 所属先を残して他を削除してください

人文 理 工・機械 工・知能

氏名 \_\_\_\_\_

1. 下の文が、ポッカッチョの『デカメロン』の説明として正しくなるように( )内に適語を入れてください。

- ( )年に大流行したペストから逃れるため( )郊外に引きこもった男( )人、女( )人の計10人が退屈しのぎの話をするという趣向で、10人が各自1日1話ずつ10日間語り、全100話からなる。

2. 調べて( )内に適語を入れてください。

- 『デカメロン』の「デカ(deca)」の意味は( )である。
- デカ(deca)に似た言葉に、デシリットルの「デシ(dec)」がある。「デシ(dec)」の意味は( )である。

3. 調べて、( )内の選択肢の正しい方を残して、間違っている方を消してください。

- ペストは撲滅(された・されていない)。

4. 本文の内容と同じになるように( )内に適語を入れてください。

- ペストは、日本語・漢字語で( )である。
- この時のペストは、( )で発生し(方向： )へ蔓延していった。
- ペストの動物をイタリア語(カタカナ)で( )という。
- ペスト患者と話したり患者に近づいたりすると感染したが、( )に触れただけでも感染した。

- ペストは、人だけでなく( )までがこの病気に罹った。

- ペストの流行によって( )の権威は失墜した。

- ペストの流行によって誰もが人と会うことも、人の世話をすることも、人を見舞うこともしなくなった。( )が子どもの世話をもしなくなった。

- 上流貴族も、まともな葬儀をしなくなった。中流下級や下層民は、一日に( )人もが発病した。屋外で亡くなった人も多かったが、屋内で亡くなった人の方が多かった。( )でやっと隣人が亡くなったことを知るといことも珍しくなかった。

- 教会の墓地が満杯になったので、教会は墓地に大きな( )を掘り、そこに遺骸を重ねて並べた。

- 郡部や田舎の貧しい小作人たちは、人間というより( )のように死んで行った。

### 【資料3】

2020初等科図画工作【1】【2】課題

(4 該当しない方を消去)

A班 B班 所属(例:小学校総合、数学、など) \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

■ MoMAで一番好きな作品

作者名:

題名:

作品図版:

インターネットで画像を探して、この位置にコピー。  
 大きさはおよそ右の図版くらい。  
 横長の作品は、高さを右図くらいにして。  
 右の図版を削除してから貼り付ける。  
 この機会に、画像をネットで探したり、Wordに図版  
 を貼り付けたりする方法をマスターしてください

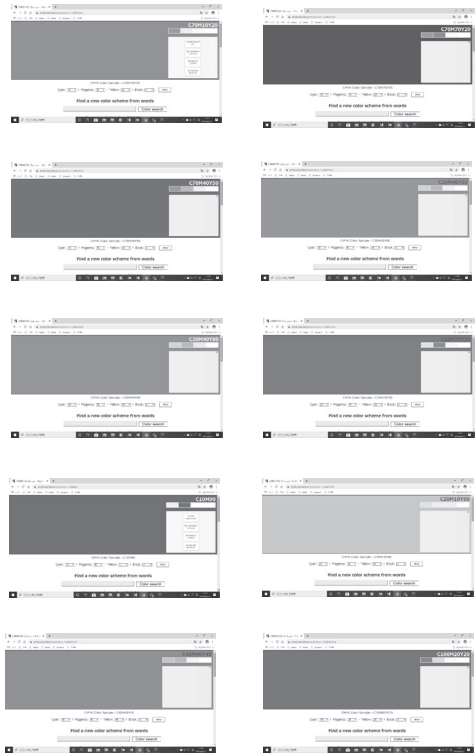


【この作品について、あなたが考えた事、好きな理由】 文字数が少な過ぎると減点。

【参照した文献またはサイト】 URLが長過ぎる場合にはサイトの名前だけでよい。

### 【資料5】

美術 吉田貴富



### 【資料4】

2020 初等科図画工作 B班 第3部 担当: 吉田貴富 2020年6月19日(金)

宿題 : 小学校教師なら知っておきたい色彩理論

提出期限: 6月25日(木)

所属 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

( ) 内に適語を入れて、設問に答えてください。  
 中学校で良い美術教師に教わった人は知っているはず。

◆「色の3要素(属性)」は、  
 (あかるさ: )  
 (あざやかさ: )  
 (色み: )  
 である。すべて漢字2字。

◆「色が明るい」ことを「明度が高い」と言う。  
 「彩度が低い」とは、平たく言うところ「色が鈍い」ということである。  
 「彩度が高い」とは、平たく言うところ「色が( )だ」ということである。

◆日本の「虹の7色」は、  
 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  
 である。並んでいる順に、すべて漢字1字で記しなさい。  
 これらは音読みで覚えるといいらしい。「せきとうおうりよくせいらんし」。

◆光は電磁波の一種である。電磁波を波長の順に並べると、  
 赤の外側にも見えない光があり、これを( )と言う。これの  
 さら外側に電波がある。  
 紫の外側にも見えない光があり、これを( )と言う。これの  
 さらに外側にX線などがある。

◆日本では虹は7色ということになっているが、地域や時代によっては6色で  
 あったり5色であったりもする。なぜこのようなことが起こるのか、簡潔に  
 説明せよ。  
 虹の構造のことを尋ねています。  
 したがって、「色の呼び名や種類、文化が異なるから」の類は除く。

↓ 2ページ目あり

◆「絵の具の3原色」は、( ) ( ) ( ) である。

◆「光の3原色」は、( ) ( ) ( ) である。

◆「絵具の3原色」は、混ぜれば混ぜるほど明度が下がる(暗くなる)。この混  
 色を「( )法混色(混合)」と呼ぶ。  
 「光の3原色」は重ねれば重ねるほど明度が上がる(明るくなる)。この混  
 色を「( )法混色(混合)」と呼ぶ。

◆かつて「はだいろ」と呼ばれていた色の名前は問題があったので改められた。  
 (1) 色名「はだいろ」の問題点とは?簡潔に説明せよ。

(2) かつての「はだいろ」は、  
 今日では(日本語由来: )  
 または(英語由来: ) という色名である。